

# つきがた

No. 139

昭和56年6月10日発行  
発行/新潟県月潟村役場  
毎月10日発行 1部10円

(昭和52年7月22日第3種郵便物認可)

人口動態	5月31日現在	5月中の異動
世帯数 (男)	813 (1,885)	出生 6 死亡 2
人口総数	3,869 (1,984)	転入 7 転出 11



## 期待を担って 乾燥センターが稼働

### 共同施設で 麦の乾燥・調整も大量処理

農協の麦乾燥調整センターが六月八日稼働し栽培農家から大変喜ばれております。

このセンターは、転作麦の作付拡大とその定着化を図り地域農業複合化による農業所得の向上に役立てようと地域農業生産総合振興事業で総工費約四、二九一万円を投じ昨年十一月、ガソリンスタンド裏に建設し待ち望まれていたものです。

この日刈取りを初めたのは西置場の田辺富夫さん。田辺さんは昨年四〇〇Kg取りを経験している精農家の一人、弁当を持って行かなくてもその分の収入を得られればと水田裏作麦に取り組んだもので五六アールに試作したみのり麦。

今年産麦は、降雪が多く雪消けも遅かったことと更には冷夏を思わせる低温気味で昨年より三〜四〇程度刈取りが遅れているが、五〇アールについては、水田裏作により刈取り後すぐ稲を植え付けたためと水田に囲まれている圃場で水が浸透し湿害を起こしていることから他より成熟が早まったものである。

作柄はまあまあとのこと、「刈取り跡の稲の出来具合をみて来年も考えてみたい。自分で作ってつくづく感じたが、やはり集団圃場により水をシャットアウトしないと高い収量は望めない。今年の転作麦は仲間で約一六〇アールがまとまったので今までの経験、技術を生かし取り組みたい。」と、自信の顔をほころばせながら話されていた。

天候も回復し麦秋にふさわしい初夏の日、今年導入したばかりの真新しい貸出用の高性能コンバインでみるみるうちに刈取られた麦は、早速センターに運ばれた。ここでは、乾燥、調整、袋つめの作業が一日半の行程で行なわれるもので、待ち構えたセンター作業員の手により荷受ホッパーに入れた麦は昇降機で乾燥機に搬出され、あとは仕上がり待つのみ。

センターやコンバインの利用は集団転作組合または農家組合単位とされており、乾燥調整料は一俵(五〇Kg入)四〇〇円、コンバインは一〇アール当り三、〇〇〇円の貸出料とそれぞれ格安となっており早くも希望申込が殺到しセンター作業員が目を見舞うかきかきしておりました。

しかし、このセンターも使用期間はせいぜい十日間位、あとは何も使わない日のおいもつたいない、遊休時においては、やさしいや果物の集出荷物、大豆の脱粒、調整の共同作業場に、また、米の乾燥、調整にも処理が可能であることから農協では施設の有効利用を図って行こうと検討が進められているとのことである。

また、麦も連作すると極端に地力が消耗すること、「有機質の多投」、「大豆作との輪作」を徹底するよう呼びかけておりました。